

『つなぐ住まい』 —記憶に関する住まいの提案—

『平面・配置』に関する検討

敷地内にランダムに四角を配置して、大きさもばらばらで、小さい物が住宅になったり、大きい物が共有のスペースになったりする。重なり合っている部分が室内になり、黄色く塗られているスペースは外部になる。また、この四角が屋根だけになっていることもあると考えられる。その屋根は、4本の柱の上にかかっている物であるかもしれないし、1本の柱で支えられている傘のような物かもしれない。

四角を傾けることはせずに、東西南北に、くように配置した。既存の住宅は道に対して角度がついているのに対して、整然と配置される。建物の区別の規則性を変えることで、それぞれの角度をつけると同時にそれぞれの関係性が変わる。

道の交点は広場になる(斜部) 道で区切られ、大きく開いた地に共有部を建てる。

共有部が大きくなりすぎてしまう。2~3の共有部に分ける方がよさそう。

道のような大きな屋根をかける。屋根の下に共有部があり、屋根の真下の通り抜けができなくなっている。既存住宅と新住宅の間の部分が通り道になる。この街区を通り抜けようとするということで考えると難しくなるかもしれない。共有部の空いている面が隣り合う形になるので、関係が持ちやすくなるかもしれないが、逆にあまりにも共有部が近くなりすぎている気もする。

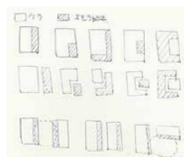
『住戸、共有スペース、既存住宅の関係』に関する検討

大きい斜の四角は共有部。小さい四角は各住戸。共有部 (common) に対して各住戸が開いている。Semi public/Semi commonの方が良いかもしれない。Semi privateとか。)の部分を持つ住戸はそれを共有部にける。全住戸が内をいている。内的。共有部の方をパブリックと考えていたが、コモンの方がしっくりくる。外部がパブリックにあたると思われる。

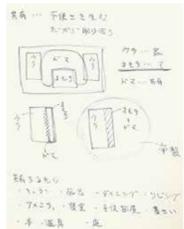
外部をパブリックとして、外側に開いてみた。外に活気が生まれる。共有プライベートはコモンとすれば住戸が開いていなくても使われるので活気づく。しかし、外部に住戸を開くよりも共有部にける開く方がある程度の範囲の決まった関係性をつくる場として活用されると思われる。1階と2階で内と外に反対方向に開いてみるのは良いかもしれない。

住戸のイメージ。左) 外部側にバルコニーをつけ、玄関前にも生活の色を出す。右) ガラスの内部側には緑網を設け、共有部と専有部のつなぎにする。緑網もバルコニーも住戸のキューブの形を崩さないように、壁が外形をとるようになっている。しかし、これだと外部に対して消極的なイメージがある。

『うら、おもて、土間』に関する検討



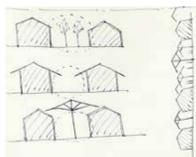
うらとおもての関係 上) うらとおもてが接している。中) うらとおもてを離してみた。間の空間は道や土間になるかもしれない。下) おもて(うら) 同士の関係、配置。



うらとおもての間に土間があると考えた。街区内で考えたとき、うらに位置するのは各住戸であり、土間に位置するのは共有部であると考えたが、おもてに位置するのが何になるのかわからなかった。共有部でカフェなどをやったらそこがおもてになるのかもしれない。

卒業制作では、1住戸の中で、うら=生活の場、おもて+土間=「緑土間」趣味で繋がる場、とした。

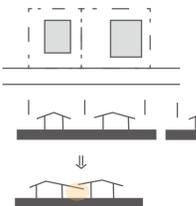
『屋根』に関する検討



上) 軒を出さず、外部のみ。広場的。中) 軒を出す。それぞれの共有部の延長の空間が生まれる。上の広場的より共有部同士の関係がつくれる。下) 共有部の間に屋根をかける。共有部同士での共有部のような感じ。互いの領域が中よりも曖昧になる。右) 外部と共有部の断面イメージ。共有部の間に傘が開いているイメージだった。



共有部の屋根の検討。「熊本市営託麻団地」を参考に、「熊本市営託麻団地」では住棟が道に沿っていたり、住棟間を道が通っていた。これを共有部の屋根で試してみた。共有部の屋根の下に道があることで、この街区に住んでいる人との関係ができる場が生まれる。下左) 住戸の上に大屋根をかけることで住戸の屋上が使えたり、空間として、大屋根の共有感が生まれる。下右) 住戸の屋根が共有部の屋根にまで達していると、空間が分かれるようになる。共有部の空間を住戸で仕切るような形になる。共有部は薄くなる。

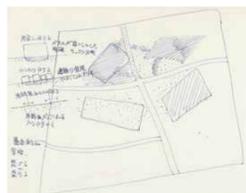


普通は屋根は敷地境界の内に収まっている。つまり、屋根は隣家と重なり合うことはない。しかし、軒がのびて、隣家と重なり合うことができれば、軒下のスペースは隣同士で共有することができ、関係性を生むことができる。

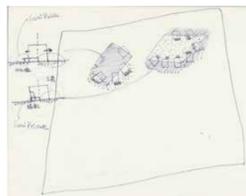


当初のイメージ 共有部を含んでいる大屋根が高く、目立つような形になっている。街区を囲むように低い屋根が巡っている。屋根の下は壁等はないが、廊下が巡っているようになるので、外部の人は見られなくなる。既存の家が敷地ぎりぎりに建っている場合は廊下は途切れる。

『地面テクスチャ』に関する検討

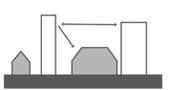


地面のテクスチャで共有部の内外の境界をつくろうとした。(1) 地面のテクスチャを内外で分けてガラス囲い (2) 地面のテクスチャのみ (3) ガラスの囲いのみ (3)-2 地面のテクスチャを道とガラス 囲に分ける。ガラスの内と外は同じテクスチャだが道とは異なる道が明確になる。共有部が独立する。



(1) 共有部に土間をける。室内と共有部でテクスチャを統一する。共有部のテクスチャを室内に引き込む形になる。外部にけるはぬれ線を書く。家の領域がパブリックになる形になる。

(2) 外部に土間をける。外部と土間でテクスチャを統一する。外部を住戸内に引き込む形になる。共有部には緑網をける。住戸を共有部に開く形になる。



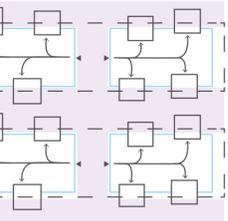
既存の家よりも高いものにするという可能性としては否定できない。視の操作を行ったら、既存の住宅や共有部などの関係性に面白い変化が起こるかもしれないが、自分のなかで消化しきれなかった。



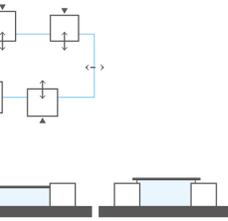
大屋根の下の住宅部分 陸屋根にすることで、住宅の上を活用できる。屋上を住宅のプライベートスペースにした場合、共有部と空間は共有しつつ高さで区切ることができる。逆に、屋上を共有スペースにし、各住宅の屋上をつなげる。住宅同士の関係がつくれ、外部の人は見れなくなる。セキュリティが高くなる。しかし、既存の住宅との関係をつくるができなくなる。



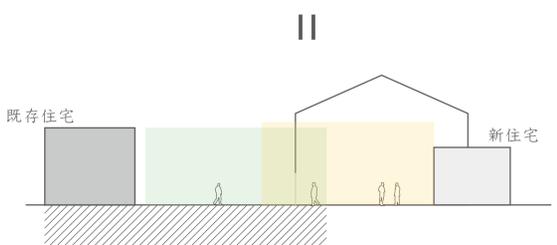
新しい住戸同士の共有部に、既存住戸からの地面テクスチャをのぼしている。これであれば、元から住んでいる人達と新しく住む人達と交流がとれるように思えるが、元から住んでいる人達が積極的に共有部に入っていかねばならなくなり、活用されにくいと考えられる。



各住宅へのアクセス。各住戸へは、共有部を介してアクセスする形になっている。



住宅を介して共有部にアクセスする。住宅以外からもアクセスができる。共有部の屋根。住戸よりも低くするのか、住戸にもかかるような形にするのか。共有部に住戸が割さっているようなイメージがあるので住戸にかぶさるような物で考えている。

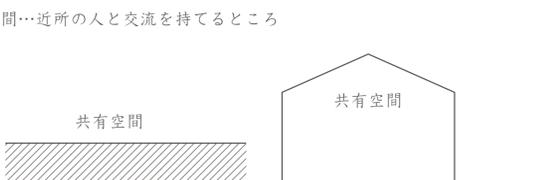
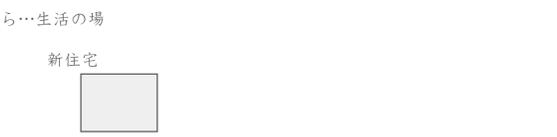


既存住宅と新住宅が関係を持てるようにする。
・既存住宅の共有空間として地面のテクスチャを利用する。
・新住宅の共有空間をつくる。
上記二つを合わせることで、元より暮らしていた人達と、新しく移り住んできた人達と関係を持たせることができる。

おもて、うら、土間という考えをもつ家を考える。新しく提案される住戸は共有空間にくっつくかたちになっている。この共有空間は近所の人達と交流をもつ場だ。近所の人とは同じ共有空間を使っている人だけではない。元より住んでいる人達もだ。

新しい住戸はお客さんをもてなす空間をもつ。そして、それとは別にプライベートの生活空間をもっている。

共有空間をもつことで、お客さんをもてなす空間と、プライベートな生活空間をもつことができる。



共有スペースのある暮らし1
お母さんもお父さんもお仕事をしている家もあると思う
お母さん達の帰りが遅い時も安心
共有スペースで近所の人達が子どもの面倒をみてくれるから

共有スペースのある暮らし2
ひとり暮らしの大学生もいるのかな
でも、一人でアパートに暮らしているのとは違うから
安心して暮らせるし、さみしさもまぎれるから大丈夫
両親も安心してひとり暮らしに出せるしね

新しい共有スペース
新しく移り住んできた人達の共有スペース
キッチン、ダイニング、リビングを共有する

元より暮らしている人達との共有スペース
地面のテクスチャを変えた外部の共有スペース
既存の住宅から延びるように変化した地面のテクスチャは
新しく移り住んできた人達の光へと導いていく

ゲストハウス
旅行者や知り合いを泊める
三保に観光に来た人達はここに泊まることで地元のスポットが聞けたり、案内をお願いすることができるかもしれない
そこに暮らしている人との交流はただの観光よりも充実したことになるだろう

新しい住戸
お風呂、トイレ、小さなキッチンがついている
1階はお客さんをもてなすところ
2階がプライベートな生活空間になっている

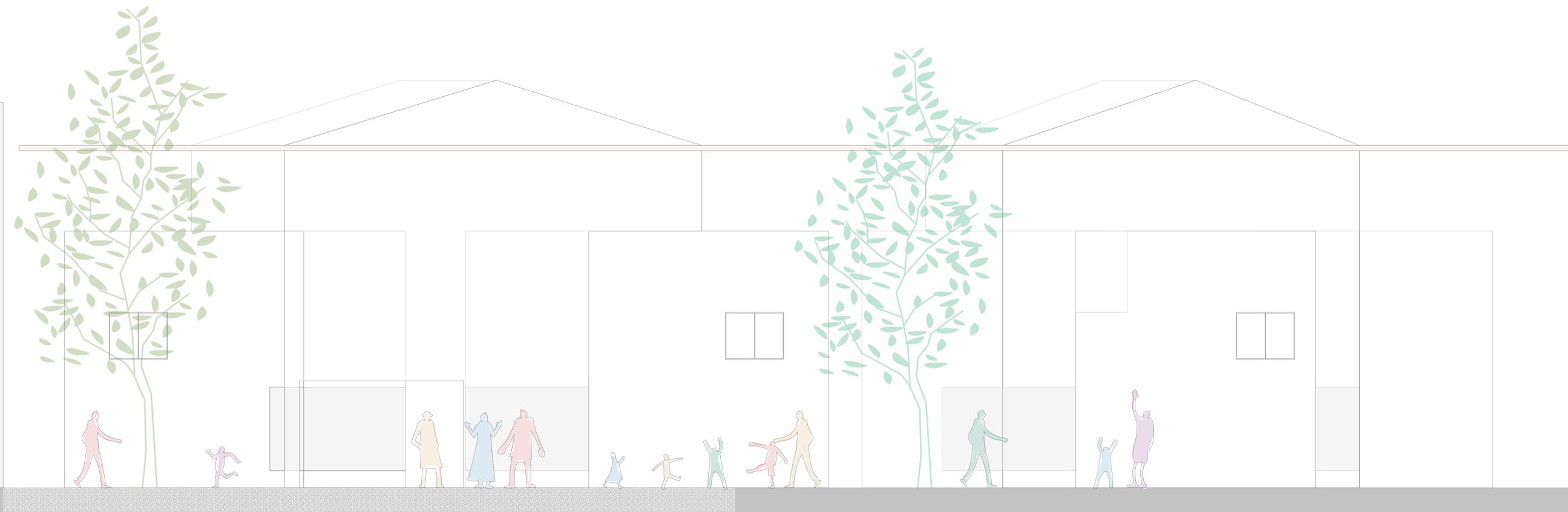
石畳
既存の住宅に導き、もっと奥へとそれとなく引き込んでいく

共有スペースのある暮らし3
元々住んでいる人には農家の人もいる
でも、年をとってきてお仕事できなくなってきた知もあるみたい
そんな知を借りて、ちょっと本格的な家庭菜園を始めてみよう

共有スペースのある暮らし5
子ども達が集まる共有スペースがある
ここに住んでるお兄さんはゲームが得意なんだ
お兄さんの友達も一緒にみんなでゲームをやっている
もちろん宿題は「あとでやる」

共有スペースのある暮らし4
同じ趣味の人もいると思う
たくさんの方が暮らしているから
自分のどこの共有スペースはお料理教室をやっている
隣の共有スペースは夕方からバーをやっている
自分は夕方から隣に行くのが日課になってしまった

共有スペースのある暮らし6
意外にも大人達が子どもと一緒に遊んでる共有スペースがある
みんなでミニ四駆大会だ
大人の方が熱中してるみたい
ミニ四駆コースも大人達でカンパして買ったらしい



西立面图



X-X' 断面图

